

令和6年度第1回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和6年5月27日（月）10時00分～12時15分
開催場所	横浜美術館 円形フォーラム
出席者	岡部委員長、六川副委員長、恵志委員、木村委員、宮尾委員
欠席者	野原副委員長
オブザーバー	恵良氏、杉崎氏
開催形態	一部非公開
議 題	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 令和5年度事業評価について</p> <p>(2) 令和7年度以降の創造界限形成事業について</p> <p>(3) 新高島駅地下1階倉庫及び隣接道路区域の活用方針案について</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 象の鼻テラスの運営団体公募のスケジュールについて</p> <p>(2) 旧第一銀行横浜支店運営事業者公募の進捗状況について</p> <p>3 その他</p>
決定事項	
事務局	<p>【開会】</p> <p>○令和6年度第1回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。 本日は、委員改選後、初回の会議となるので、委員長選出までの間、進行を務める。</p>
足立局長	<p>【挨拶】</p> <p>○にぎわいスポーツ文化局長から挨拶が行われた。</p>
事務局	<p>【事務局紹介】</p> <p>○人事異動に伴う事務局職員の紹介が行われた。</p>
	<p>【資料確認】</p> <p>○配付資料の確認が行われた。</p>
	<p>【委員紹介】</p> <p>○委員の紹介が行われた。</p>
	<p>【定足数の確認】</p> <p>○委員6名中5名（うち1名、オンライン）が出席しており、委員会は成立。</p>

	事務局	<p>【会議の公開・非公開】</p> <p>○本会議の公開・非公開について、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により、審議会等の会議は原則公開だが、例外が認められており、本日の審議事項(3)及び報告事項については、同条例第7条第2項に規定の非開示情報に該当するものが含まれていることから、本会議を一部非公開としたいと考えている。よろしいか。</p> <p>(了承)</p>
	事務局	<p>【議事録について】</p> <p>○前回の議事録について、既に皆様に御覧いただいていると思うので、後ほど御確認をお願いする。</p>
	事務局	<p>【事務連絡（委員長・副委員長互選）】</p> <p>○委員会運営要綱第5条第2項により、委員長、副委員長は、「委員の互選により定める」とされている。事務局としては、委員長を岡部委員に、副委員長を昨年度から継続して就任いただいている六川委員、野原委員をお願いしたいと考えているが、いかがか。</p> <p>(異議なし)</p>
	岡部委員長	<p>【分科会の委員構成】</p> <p>○まずは分科会の委員構成について、今年度設置される各分科会の設置運営要領では、委員長が分科会委員を指名するとされている。分科会委員の指名に当たり、資料1について事務局から御説明いただきたい。</p>
	事務局	<p>○資料1の裏面を御覧いただきたい。昨年度まで委員会の下部組織として各拠点の分科会を設置していたが、来年度からは拠点ごとの分科会は廃止し、運営団体を公募する際に時限的に設置する体制に変更する。今年度は、旧第一銀行と新高島の2拠点について分科会を設置する。旧第一銀行は六川委員、新高島は岡部委員に議長をお願いしたい。</p> <p>また、来年度の本委員会での事業評価方法を検討するに当たり、新たに事業評価分科会を設置する。こちらの分科会は、昨年度の各拠点の分科会の議長に委員になっていただき、議長は菅野委員をお願いしたい。</p>

岡部委員長	○事務局から説明があったとおり、委員構成及び議長は、資料1のとおりとする。
岡部委員長	<p>審議事項（1）：令和5年度事業評価について</p> <p>○次に審議事項(1)令和5年度事業評価についてだが、今年3月に実施した委員会で仮評価まで実施している。本日の委員会では、仮評価実施後の変更点だけ確認し、5年度の事業評価として確定したい。</p> <p style="text-align: center;">（異議なし）</p> <p>では、事務局から資料の説明をいただきたい。</p>
事務局	<事務局より説明が行われた>
恵志委員 事務局	<p>【質疑応答・意見交換】</p> <p>○評価シートのフォーマットが拠点ごとに少し違うのか。</p> <p>○基本的な実施結果として、自己評価、委員会評価というところは同じだが、評価軸に関しては、拠点ごとの目標や方針に沿って設定をしている。</p>
岡部委員長 事務局	<p>○前年度は、前回の1回で仮評価をしているが、何回かやっているか。</p> <p>○各拠点の分科会で1回議論を行ったうえで、第3回目の委員会において、各拠点のディレクターから口頭で御報告いただき、このペーパーも踏まえて審議をしていただいている。</p>
宮尾委員	○どのように議論をしていけばいいのかが分かっておらず、すごく細かい点の話をしているのかが分からなかったが、進め方を御教示いただきたい。
岡部委員長 六川副委員長	<p>○今まではどういう形で議論されていたか。</p> <p>○今までは拠点ごとに分科会にて議論をしていた。分科会では各拠点の長から直接ヒアリングを行ったりしていた。前回の委員会で、次回からやり方を変えることとなったが、拠点の方を呼んで直接ヒアリングをする方法は継続したほうがいい。</p>
事務局	<p>○その方法は、継続したほうがいいと考えている。</p> <p>基本的にこの5年度の事業評価シートは、各拠点の分科会で評価をし、最後の委員会で各拠点のディレクターからもお話をさせていただいて、仮評価という形にしたものになる。特段問題がなければ御了承いただきたい。また、今年度どういった評価でやっていくのかと</p>

六川副委員長	<p>いうところは、今年度の事業評価分科会で御議論をいただきたい。</p> <p>○最終の委員会を通った報告書であると感じていただければいいと思う。拠点によって大きさも規模も違うので、なかなか難しい部分もある。20年間積み上げた結果、話し合いの形も変わってきた。</p>
恵良氏	<p>○各拠点の関係性や、全体のバランスをみて、議論する段階に来ているのではないかと。シートに書かれている、これまでの総評を見ると、今までの経緯や課題がわかる。</p>
六川副委員長	<p>○後ほど、御確認いただければと思う。</p>
恵志委員	<p>○今後の評価のやり方はまた別として、評価シートの書きぶりが拠点によって違うことについては、知らなかった。</p> <p>今後、全体で議論等行っていくのであれば、表や書きぶりを統一したほうがいい。</p>
事務局	<p>○このシート自体も、この様式でいいのか、というところから御意見をいただきたいと思っている。</p>
宮尾委員	<p>○拠点によって役割が違うし、規模感も違うので、同じ尺度で測るのは難しいとは思いますが、ざっとみて総括しにくいと感じてしまう。中身は問題ないと思う。</p>
杉崎氏	<p>○昨年度現場にいた者としては、Tokyo Gendaiの開催が決まったり、トリエンナーレも時期が3月に移ったりと突発的に拠点運営のスケジュールに影響する事態があり、創造界限拠点の方々も結構大変な時期だったと思う。それに合わせて市からもオーダーがあった中で、各拠点の皆さんが真摯に応え、時間もお金も人もない中で対応されていたような印象を受けている。その結果、各イベントが盛り上がり、拠点があることによって、まちとアートがつながっていくみたいなどころは見えたのではないかとと思っている。</p>
岡部委員長	<p>○それでは、審議事項1について了承でよろしいか。</p> <p style="text-align: center;">(了承)</p>
岡部委員長	<p>審議事項(2)：令和7年度以降の創造界限形成事業について</p> <p>○審議事項2について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><事務局より説明が行われた。></p>
岡部委員長	<p>○この件について、御質問や御意見はいかがか。</p>

事務局	<p>○本日御欠席の野原委員から御意見を承っているので、御紹介する。</p> <p>方向性の1について、歴史的建造物や公共空間の活用は、創造都市施策の重要な点であることは今後も変わらないと思うが、今後はぜひ本来の都市資産、各拠点の価値や特徴は何であるかをよく吟味した上で、その特徴、特性、個性が生きるクリエイティブな活用方法を模索し、事業者にも検討していただく道筋ができるとよいのではないかと思う。歴史的建造物や資産は魅力もある一方で使い勝手の悪さも伴うが、その使い勝手を逆手に取るような方法が生まれるといい。</p> <p>方向性の2について、クリエイティブコミュニティの形成は、今後の横浜市の創造都市施策の中でも重要なポイントになると思われる。これまで一人一人のクリエイターの集積や創造活動や創造産業のアウトプットを求めてきたと思うが、そうしたアウトプットを生み出す土壌を一人一人だけではなく、周辺の関係者や地域も巻き込みながら生み出す形を志すというのが重要なポイントとなりそうだ。そして、それを生み出すための小さな拠点などは今後も求められていくと思う。その意味では、都心臨海部、市街地でもクリエイティブコミュニティ形成は求められるように思うので、郊外展開だけでなく、全市展開できるとよいのではないかと思う。</p> <p>方向性の3つ目については、横浜市の創造都市施策そのものが何を指して、どんなビジョンで具体的なプロジェクトを進めているのかということも併せて発信できるといいと思う。</p> <p>以上が野原委員からの御意見である。</p>
岡部委員長	<p>○方向性の2の全市展開について、具体的に何かを決めているか。ノミネートをされている場所等はあるか。</p>
事務局	<p>○今現在考えているのは、一つ目として、市営団地の高齢化などの地域課題の解決に向けた取組をどこかの団地で展開したい。建築局住宅部や都市整備局などとも連携をして、キーパーソンとなる人物がいるか、どういう課題があるのかなどの調査をし始めたいと思っている。</p> <p>二つ目は、企業と一緒に協同で進められるところを検討している。現在の候補としては、相鉄線の星川駅から天王町駅間の高架下でできた星天qlayという施設で、様々なインキュベーション的な施設も入りつつあるので、周りの商店街も巻き込みながら展開をできたらと思い、検討している。</p>
岡部委員長	<p>○キーパーソンや地域プレーヤーが相手方にいた上で関わっていつ</p>

	木村委員	<p>たほうが、地域のコミュニティとの関係性も考えると経験上やりやすいと思う。</p> <p>方向性3については、どこに・どのような人に発信をしていくのか、ということも少し見ながら考えていく必要があると感じた。</p> <p>○方向性3のプロモーションについては、拠点によって創造活動支援のための場所という意味合いが強いところもあれば、ふらっと立ち寄って休憩、あるいはカフェでというようなことも可能な開かれた施設というようなところが特徴の場所もある。例えば「Time Out TOKYO」だと、外部からやってきたお客さん、インバウンド等も視野に入れたものの中に、この創造界限拠点も含まれているが、常に毎日何か活動が行われているわけではない、アーティストの制作活動の場所などを、こういった市のプロモーションの中に組み込むというのはなかなか難しい中で、どういう人たちに向けて何をどうプロモーションしていくのかということ。また、子育て世代等に発信と言ったときに、子育て世代に向けたプログラムというものを、具体的にそれぞれの拠点全てに要求しているのかどうかということ。そういった兼ね合いについて、どのように計画をしていくのかと思った。同じ創造活動支援であっても、別に全ての拠点が同じことをやる必要は全くないと思うので、それぞれに要求しているものがどういうふうになっているのかが気になっている。</p>
	新谷課長	<p>○「Time Out TOKYO」に関しては、今回は横浜トリエンナーレやTokyo Gendaiなど、割とインバウンド向けで作成しているが、他のインバウンドの方が来たときに、横浜の観光の一つの要素としてアートもあるということを知っていただきたいという目的で作っている。もちろん市民の皆様にも、創造都市施策を広い範囲で広報していくことも必要だと考えているが、今回はターゲットとして子育て世代を選んで、横浜市の子育て向けのサイトなどを活用して、広報発信の方法などを検討していきたいと考えている。</p>
	恵志委員	<p>○クリエイティブなコミュニティ形成を目指すことを、今後の新たな方向性として設定されたと理解したが、クリエイティブなコミュニティというのがやや漠然としていると感じる。例えば、案によれば、アーティストたちのクリエイティブなコミュニティをつくるというようなものもあれば、一般の市民と共にまちづくり、コミュニティづくりを行うというものも含まれている。一つには決められないものだと思うが、アプローチが異なっていくため、同じ「クリエイティブコミュニティ形成」の括りで目標設定とするのは難しいとも感</p>

	事務局	<p>じる。事務局や委員としてどういうところを目指しているものなのかというのは共有する必要がある。</p> <p>○地域コミュニティという言い方を整理し、にぎわいづくりに対する地域コミュニティという言い方をしてきたが、拠点によっては地域コミュニティを形成することはなかなか難しいと思っている。クリエイティブなコミュニティをつくっていくという言い方であれば、それぞれの拠点が地域コミュニティだけではない、コミュニティ形成というものに資することができるのではないかと、こういう表現にした。ただ、どういうことを目指していくのかというのは、まさしく委員の皆様から御意見等もいただきたいと思っている。</p> <p>プロモーションの関係についても、皆様から御意見をいただきたい。横浜市の創造都市施策は関心のある方々にはよく知られている状況で、ある意味市外のほうが認知度があるのではないかと、ところは正直実感している。</p> <p>ただ、市民の方に向けて、創造都市施策について、もっとわかりやすく知っていただくようなプロモーションをしていかななくてはいけないと思っており、全市展開をしていく中、市民の皆様の生活の近くで活動していくことによって知っていただくという要素もあると思っている。どのようなプロモーションをやっていけるのかというところも併せて検討していきたい。</p>
	恵良氏	<p>○これまでは拠点の政策全体としての伝え方の議論をする場が中々なかった。今後、創造都市という言葉の市内外への広伝え方について今日の会議の開始時に語られることは意味がある</p>
	岡部委員長	<p>○まちづくりにも、アムステルダムように都市キャンペーンをやるものもあれば、バルセロナのBARCELONA BATEGAのように、街をもっとよくしていこうみたいなことをピクトグラムも含めて紹介するものもある。</p> <p>郊外展開をしていくときに、個々の活動を紹介して広めていくというやり方とともに、取り組み全体としての何かしらのアイコンをクリエイティブな視点でつくっていくといい。ただロゴマークをつくりましたではなく、きっとそこにクリエイターの発想をちょっと盛り込んでもらってシビックプライド的の動きができると思う。</p>
	恵志委員	<p>○今まで各拠点が各拠点でやっていることをPRしてきたが、市民の身近なところで行われている様々な取組を知ってもらおうということだけでは足りず、施策全体のプロモーションの強化が必要だという</p>

宮尾委員	<p>ことだと思っている。</p> <p>○共通性が見つかる、それぞれのプロモーションの連動というのもしやすい。全市展開をしていくというときに、運営体制や関係人口をどう増やしていくのかも課題としては大きい。各拠点の担当と会話したが、かなり運営が大変そうだというのが正直な印象。大きな計画の中で全市に広げていき、いろんな社会課題の解決を目指すのはもちろん大事だが、まずこの6拠点をつなげるテーマや、そこに参加・賛同してくれる人、例えば人の共有化なども会話してけるとよい。6個の塊が大きくなって行って、そこから全市展開に持っていけないと、やる気のある人がどんどんいろんなところに手を出して結局疲弊するようなことになると思う。</p>
六川副委員長	<p>○20年の経験、実績を踏まえて、新しい創造界隈形成事業をまたスタートしましょうかというのが今回の委員会になると思う。当初はクリエイティブシティ・ヨコハマといって、クリエイティブな方々を、あるいは組織を応援しようというようなことでスタートした。そして拠点が与えられて、拠点の事業という形で展開していき、その成果も多くあった。拠点は、先ほど皆さんがおっしゃったように、それぞれ規模が全然違うものなので、なかなか難しいが、今回は20年の経験を踏まえて、今度は臨海部から郊外に視点を向けようということ。新しい気持ち、新しい発想でこの事業に向かっていった方がいいのではないのかと私は思っている。</p>
岡部委員長	<p>○今回審議の内容は、こういうことをやっていきたいという案の審議であり、詳細については今後事務局や委員会で話していくということによろしいか。</p>
事務局	<p>○この3つの方向性で行きたいと考えているが、もっと具体的に詰めて深めていく必要があると思っている。それに向けての色々な御意見を今日この場でもいただきたい。</p>
岡部委員長	<p>○この方向性についての了承ということによろしいか。</p>
事務局	<p>○はい。</p>
恵志委員	<p>○今、六川委員が御説明した、これまで培ってきたノウハウを湾岸部から内陸部のほうに展開していくという意味のクリエイティブコミュニティと、各拠点が創造的にぎわい形成に対するクリエイティブ形成というのは、違うような気がした。</p>
六川副委員長	<p>○まさにそういう御意見をいただいて、もう1回市のほうでまた検討していただくといいと思う。</p> <p>私はずっと観光という視点を申し上げてきたが、今回はにぎわいの</p>

	<p>恵志委員</p> <p>六川副委員長</p> <p>恵志委員</p> <p>六川副委員長</p> <p>杉崎氏</p> <p>岡部委員長</p> <p>杉崎氏</p>	<p>向上という部分の中で観光も含まれると説明があった。それもあ りだとは思っているが、できれば観光というキーワードを1つ上げて ほしいと思っている。</p> <p>○これについて思うところを取りあえず自由に言えばよいというこ とか。</p> <p>○はい。</p> <p>○承知した。各拠点がつくろうとしているクリエイティブコミュニ ティと、THE BAYS、急な坂、日ノ出町に、これまでのノウハウを基に、 今後は違う形で地域住民の人たちと手を携えてやっていってほしい という話は別の話だと思う。そこが整理され切れていないと感じた。</p> <p>○事務局でどういうワードにするか検討してほしい。</p> <p>○場を持っているというのが議論としては抜けているのかなと思う。 それぞれアートのための箱を持っているので、話題はプログラムの ほうに行くが、その場自体がインフォーマルパブリックな場になっ ているかどうか、もっといろんな市民の人が集える場、集まれる場 になっているかという議論があっても良いのではないかと。コミュニ ティの形成というのも、具体的に言うほうが私はいいと思っている。 クリエイティブコミュニティとか、それを今度またプロモーション していくこととかは、もう少し場や箱を踏まえてうまく議論してい けば、そんなに行政と現場の目的がずれないでつながっていくので はないかと思っている。基盤としての創造限界拠点をどうやって見 ていくか、それはどういう空間性であるといいのかとか、そういう ことを検討すると見えてくるものがあるのではないかと考えてい る。</p> <p>○お二人の話聞き、BankART、急な坂など、それぞれ集まっているク リエーターの人たちのタイプが少し違うのだと思った。でもそうい うふうに集めてきているというのは、この20年間でずっとやってき た機能を大前提として大切にしていかなければいけないと思ってい る。それぞれの拠点の強みを我々も認識をした上で、その中からア ーツコミッションのように郊外に送り出すというやり方、そういう 人たちの育成、インキュベートする場みたいな感じの見立てという のが1つあると思う。</p> <p>○今までの創造限界拠点は、その空間性でいろんなアーティストが作 品を展開して、我々はその空間の質を理解するみたいなことがあっ た。それは単純な鑑賞型だけではなく、ある種のインフォーマルな 場になっているといえる。</p>
--	--	---

	<p>恵良氏</p> <p>恵志委員</p> <p>木村委員</p>	<p>観光についても、皆が集まれる場所を創造都市としてどうやってつくっていくかということアーティスト、クリエイターと協働することによってなしえていくことを、観光と呼ぶ、そういうことなのではないかと思った。</p> <p>○約20年関わってきたが、これまでの活動で人、活動、場所からなる文化資本を掘り起こすことにアーティストやクリエイターの力は非常に有効であったと感じている。</p> <p>掘り起こしたモノを次のステージにつなげるのに観光も視野に置くことは良いと思う。そのときに、文化資本と環境資本と経済資本を結びつける核に場所を置くことで、横浜のまちづくり資本として総合的な捉え方になる気がする。場所に成り立つ経済に文化が加わると横浜の観光の差別化につながろう。観光を創造都市政策の中の新しい出口と捉えられる。20年たった今、議論する良い機会と思う。</p> <p>○私自身が劇場という場で働いているので、実際に場を持つというときに引き起こされる、本当にやらなければならないもろもろの単純な鍵の開け閉めなどの具体的なことに加え、その一つ一つの施設に管理とコミュニティ形成とを全部求めるというのはなかなか難しいのではないかと思う。事務局側のクリエイティブシティーをどういうふうに打ち出していくか、どこをどうしたいかということがすごく重要になってくると思う。</p> <p>○私もその件に非常に賛成しており、一つ一つが全ての機能を持つというのは難しく、一つの拠点を支えるべき対象というのはおのずと違っていると思う。それはその場の特性に応じて違っているものだし、全てがイコール何かをできるというのであれば、別に一つの組織の視点でよいということになってしまう。それをあえて専門性をそれぞれに持たせているということは、役割分担が非常に重要なんだろうと思う。</p> <p>そのときに、その施設ごとの役割を最初に分かりやすく伝わると、過剰にそれぞれの施設が負担に思うこともなくなるのではないのかと思うし、例えば、この施設はこうなのだという特徴づけが分かると、お互いに拠点同士の連携というのも図りやすくなっていくのではないかと思う。あるいは利用者を取り合うこともなく、施設間で紹介というのも可能になってくるかもしれない。むしろしっかりと市のほうでそれぞれの拠点の性格づけというのを明確にしてあげるほうがよいのではないか。</p> <p>そうすると、今、評価軸として基本的に同じ評価軸の中で評価をさ</p>
--	------------------------------------	--

		<p>れているところかと思うが、その中の配分というのを例えば変える形で、この拠点にはこちらの部分の評価というのが重要になってくるといった評価軸のパーセンテージを変えていくということも考えられる。</p> <p>あと、本当にコミュニティという言葉は、それが指し示しているものを受け手の側が全然違うものだと思っているということがよく起こりがちな言葉だと思っているので、どのコミュニティに対して、どのようなことができるのか明確にしたほうがいい。</p> <p>○この創造都市施策は、クリエイティブな活動をまちづくりにつなげていくことが、本当に根本の基本的な考え方だと思っている。それをやっていくために、それぞれの拠点が持つ役割というのは違うなというのは我々も思っている。今回その役割をにぎわいという部分とクリエイティブコミュニティの2つに整理をした。ただこれが、この2つの柱ではなく、もう少し細かく分けて、それぞれの拠点を整理したほうがいいということであれば、そう考えることは当然できると思っている。</p> <p>もう一つ、市の総合計画の中で「市民に身近な文化芸術創造都市」と掲げている。いかに市民に身近なところを果たしていけるのかどうかというのが課題となる。これまではアーティスト、クリエイターを集積するということで終わっていたところを、その先にどうつなげていくかということが求められているため、そこも加味した上で、今このような方向性として整理している。</p>
事務局	事務局	<p>○この創造都市施策は、クリエイティブな活動をまちづくりにつなげていくことが、本当に根本の基本的な考え方だと思っている。それをやっていくために、それぞれの拠点が持つ役割というのは違うなというのは我々も思っている。今回その役割をにぎわいという部分とクリエイティブコミュニティの2つに整理をした。ただこれが、この2つの柱ではなく、もう少し細かく分けて、それぞれの拠点を整理したほうがいいということであれば、そう考えることは当然できると思っている。</p>
恵志委員	恵志委員	<p>○クリエイティブなコミュニティとにぎわいの形成の2本柱ということだが、今までの拠点がそれぞれにぎわいとクリエイティブコミュニティをつくるということをやってきており、それぞれが力を合わせた感じで、新しいクリエイティブコミュニティ形成促進をみんな協力してやっていくというイメージなのか。</p>
事務局	事務局	<p>○これは郊外区にモデル的にやっていく事業のことを、このように言っており、それが全体を称しているように見えてしまっている。この名称が分かりづらくしてしまっているとわかった。</p>
岡部委員長	岡部委員長	<p>○名称はかぶっているように感じる。クリエイティブなコミュニティとクリエイティブコミュニティが違うことを指しているということか。</p>
恵良氏	恵良氏	<p>○withという考え方でのクリエイティブコミュニティ形成なのかなと思った。目的関係のtoやforではなくて、寄り添うような感じのwithでいくこと。その場所のコミュニティに応じた進化があるとい</p>

	<p>岡部委員長</p> <p>事務局</p> <p>岡部委員長</p> <p>岡部委員長</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>った感覚ではないか。だから、目的にどんな力が寄り添えるか、そこにクリエイティブが有効ではないかという議論になろう。表現の問題かなと感じる。</p> <p>○これは尽きないような気がしてきたので、先ほどのように大きな方向性というのを本日は審議するという事で、今回各委員から出たお話を受けて、事務局のほうでまた深めていただくということによろしいか。</p> <p>○要素の部分に、今はにぎわいとコミュニティだけだが、そこにもう少し分かりやすい分類を検討していきたい。</p> <p>○大きな方向性として、今回の審議について、承認でよろしいか。</p> <p style="text-align: center;">(了承)</p> <p>○審議(3)からが非公開となるが、傍聴者はいないということによろしいか。</p> <p>○はい。</p> <p>その他</p> <p><事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュール等について、事務連絡が行われた。></p> <p style="text-align: center;">【閉会】</p>
<p>資 料</p>	<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 前回議事録（令和6年3月22日開催分）</p> <p>④ [資料3] 令和5年度事業評価シート</p> <p>⑤ [資料4] 令和7年度以降の創造界限形成事業について</p> <p>⑥ [資料5] 新高島駅地下1階倉庫及び隣接道路区域の活用方針案について</p> <p>⑦ [資料6] 象の鼻テラスの運営団体公募のスケジュールについて</p> <p>⑧ [資料7] 旧第一銀行横浜支店運営事業者公募の進捗状況について</p>	
<p>特記事項</p>		